

第12回 2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議
(議事概要)

1 開催日時

令和7年6月18日(水曜日)14時00分から14時35分まで

2 開催場所

東京都庁第一本庁舎42階北塔 特別会議室B

3 構成員等

○構成員

一般財団法人全日本ろうあ連盟	久松 三二	常任理事・事務局長
東京都	渡邊 知秀	スポーツ推進本部長
スポーツ庁	小川 哲史	参事官(国際担当)
		(代理出席:古市参事官補佐)
公益財団法人日本オリンピック委員会	星 香里	常務理事
公益財団法人日本パラスポーツ協会	藤原 正樹	常務理事
弁護士	三好 豊	(欠席のため意見代読)
公認会計士	中村友理香	(オンライン出席)

○事務局

一般財団法人全日本ろうあ連盟
東京都

4 要旨

【挨拶】

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・本日は、お忙しいところ、第12回2025年デフリンピック大会開催に係る大会準備連携会議にご出席いただき、感謝申し上げます。
- ・今回は、対面で渡邊委員、星委員、藤原委員が参加されている。また、オンラインで中村委員が参加されている。小川委員は古市参事官補佐が代理出席、三好委員は欠席となっている。
- ・私から、一言、ご挨拶を申し上げます。
- ・スポーツ基本法が改正され、「デフリンピック競技大会」、「スペシャルオリンピックス世界大会」の2つの文言が加えられたことに対して御礼を申し上げたい。
- ・本日の衆議院本会議で手話施策推進法案の採決が行われる予定になっており、無事に可決されることを期待している。
- ・これをきっかけに、デフリンピック開催に向けた準備がさらにスムーズに進められ、気運醸成が図られることを期待する。

- ・また、先日 6 月 15 日に岩手県で全国ろうあ者大会が開催された。ご多忙の中、東京都、東京都スポーツ文化事業団の皆様にもご参加いただき、御礼申し上げます。
- ・参加者はおよそ 2600 名超と聞いている。多くの方々に岩手に集まっていただいた。
- ・全国キャラバンカーの出発式も行った。スポーツ庁、地元の岩手県知事、また鳥取県の平井知事にもご参加いただき、セレモニーを無事挙行できたことに御礼申し上げます。キャラバンカーは全国 47 都道府県を巡回していく予定である。
- ・3 月の第 11 回会議では、「デフリンピックフェスティバルの開催」、「ボランティア」、「令和 6 年度デフリンピック気運醸成の都の主な取組」等について皆様にご確認をいただいた。
- ・本日は、「2024 年度デフリンピック・フェスティバル実施報告」、「未来へつながるプログラム」、「令和 7 年度デフリンピック気運醸成の東京都の主な取組」等について、順次ご説明をさせていただきます。
- ・皆様、本日も忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたい。

【資料説明】

○2024 年度デフリンピック・フェスティバル実施報告（事務局）

- ・デフリンピック・フェスティバルの目的は、デフリンピックやデフスポーツへの関心を高め、認知の向上、及び来たる東京 2025 デフリンピック大会に向けて全国の気運醸成を図ることである。
- ・2024 年度の開催方法は、今までデフスポーツやデフリンピックに関心がなかった層及び子どもたちの目に触れる機会を増やすこと、そしてデフアスリートやデフスポーツについてより一層周知を図ることを狙いとし、大規模集客施設でのイベント実施や自治体または民間の大規模集客イベントに組み入れる形で、全国 9 か所で実施した。
- ・当初は 8 回開催の予定であったが、資料のとおり、福岡市、青森市、横浜市、徳島市、富士見市、江東区、亀岡市、京都市、かほく市、白山市、名古屋市の 11 回となった。それぞれ、実施主体が地域ろう当事者団体と地域行政や関係機関との共催、もしくは地域ろう当事者団体主催、地域行政後援と開催の形は様々であったが、大会ビジョンにある「あらゆる人が協働」、「デフスポーツやろう者の文化への理解を促進」、「共生社会づくりに貢献」等に留意し、デフリンピックやデフスポーツについて関心や認知度の向上を図り、気運醸成に資するものとなった。
- ・また、それぞれから決算報告、証憑書類の提出を受け、デフリンピック運営委員会事務局にて審査の上、対象とする経費に対し、10 万円を上限として、助成承認をした。

○未来へつながるプログラムについて（事務局）

- ・未来へつながるプログラムについては、2024 年秋から公開しており、全国の小中学校や自治体等から 2025 年 3 月末時点で 20 件の依頼があった。
- ・提供コンテンツの一つである映画「みんなのデフリンピック」については、教育機関に限り無償で提供し、36 校が活用した。
- ・いずれも実施レポートを、デフリンピック大会ポータルサイトに掲載している。

- ・2025年度からは、全日本ろうあ連盟が受託した、スポーツ庁の令和6年度障害者スポーツ振興事業「パラスポーツイベント開催支援」事業の一つである、ろう学校等の児童・生徒に対する体験学習等の対象として、未来へつながるプログラムの「教育ワークショップ型プログラム」を位置づけることとした。
- ・これにより、対象校に「ろう学校を含む特別支援学校」も加えるととともに、プログラムを実施する際の講師謝金、手話通訳費用の一部を連盟が負担することとし、より多くの子どもたちがプログラムを体験できる環境整備を促進していく。
- ・実施期間は2025年5月1日～11月14日までとしている。また、学習教材の一つに、きこえる子ども向け・きこえない子ども向けの2種類のパンフレットを作成し、体験授業を実施する学校に配布する。
- ・今年4月に行った第1次募集では、24件の申込があった。今後、第2次募集を行い、予定回数以上の申込があった場合は抽選を行う。
- ・なお、イベントワークショップ型プログラムは、実施主体は自治体や民間団体、企業としているため、対象とはしていない。
- ・実施状況は随時ホームページにて公表予定である。

○令和7年度デフリンピック気運醸成の東京都の主な取組について（東京都）

- ・昨年度に引き続き、多くの皆様に大会に参画してもらえよう、関係者と連携して、様々な機会を捉えて大会への関心を高める取組を幅広く展開しているところである。デフリンピックの更なる認知度向上を図るとともに、大会の気運を盛り上げていく。
- ・今年度のこれまでの取組として、4月2日に国立競技場で実施されたデフサッカー男子日本代表対クリアソン新宿の試合において、手話表現をベースに動きで応援を伝えるサインエールを活用し、デフ日本代表選手を応援した。
- ・5月9日には、大会200日前イベントとして、都内小学校で大会アンバサダーの川俣さんやデフテコンドーの星野選手を招いて特別授業を実施した。
- ・また、事業者等と連携し、SusHi Tech Tokyo2025においてユニバーサルコミュニケーション技術をPRしたほか、競技会場等における技術活用の実証も実施してきた。
- ・今後の取組としては、大会時の活用を見据えてサインエールの精度を高めていくとともに、様々な機会を捉えて周知していく。また、大会に向けて、100日前などの節目の機会を捉えてイベントを実施するとともに、カウントダウンモニュメントを制作し、福島及び静岡を含む全競技会場を巡回する予定である。
- ・そのほか、Webサイト・SNSをはじめとした多様なメディアでの情報発信に加え、大会直前期の集中的な広告展開、年間を通じたイベントへのブース出展、全国へのバッジ・ポスター等の配布を行っていく。
- ・さらに、大会でのユニバーサルコミュニケーション技術の活用に向けて、技術活用の実証を含め準備を着実に進めていく。
- ・また、都内の小中高等学校等を対象として、子供観戦・体験活動事業を実施していく。

○東京 2025 デフリンピック セッションスケジュールについて（東京都スポーツ文化事業団）

- ・昨年 11 月の選手の予備登録の結果を踏まえ、2 月に競技日程・競技種目の暫定版を公表した。
- ・今回は、21 競技・213 種目のセッションスケジュールを ICSD が決定したので、それをまとめたものを公表する。
- ・サッカー、オリエンテーリングについては開会式前から競技が始まる予定である。また、11 月 22 日(土)～11 月 24 日(月・祝)の 3 連休にはメダルセッションを集中的に行う予定である。
- ・詳細のスケジュールは競技・種目別のセッションスケジュール一覧をご覧ください。と思う。
- ・セッション時間は、競技の進行上、前後する場合があります。
- ・なお、セッションスケジュール一覧の赤字については、メダルセッションを予定している。
- ・最終的な実施種目は、8 月～10 月の参加選手の本登録の選手数を踏まえて決定される予定である。

○東京 2025 デフリンピックの観戦に係る今後の予定（東京都スポーツ文化事業団）

- ・各競技の観戦は、マラソンも含めて、無料でご覧いただける。収容人数や開場時間など、競技会場ごとの詳細な情報については、8 月頃の公表を予定している。
- ・また、開閉会式に関しては、東京体育館で実施し、基本的には無料でご観覧いただける。詳細は、8 月頃の公表を予定している。
- ・各競技や開閉会式については、動画配信を実施する予定であり、会場に来られない方にも興味を持っていただける体制を整える。

○キャッシュレス募金について（東京都スポーツ文化事業団）

- ・スマートフォン等で気軽に、より便利に大会に参画するための仕組みとして、現在 V ポイント、「d 払い®」及び AmazonPay の 3 種類のキャッシュレス募金の受付を行っている。
- ・この 3 種類に加え、6 月 12 日より、協賛者であるソフトバンク社の協力を得て、「つながる募金」を開始した。
- ・つながる募金は PayPay による募金にも対応しており、より多くの方に御協力をいただけるものと考えている。

○協賛契約の状況等について（東京都スポーツ文化事業団）

- ・協賛企業については、6 月 18 日時点で大会全体を支援するトータルサポートメンバーが 50 社、特定の競技を支援するゲームズサポートメンバーが 22 社となっている。

【意見交換】

○東京都 渡邊本部長

- ・今年度4月より、東京都において組織改正があり、「スポーツ推進本部」が立ち上がった。世界陸上とデフリンピックという二つの国際大会の開催に向けてより一層準備を加速させ、スポーツ振興に取り組んでいきたい。
- ・いよいよ大会まであと半年を切り、セッションスケジュールや大会観戦についての報告があったが、大会本番まで引き続き、切れ目のないPRを進め、多くの方に各国から集まるデフアスリートたちの活躍を間近で観戦し、サインエールなどを活用しながら応援していただけるようにしたい。
- ・東京都では、都内の子供たちを対象として、子供観戦・体験活動事業を実施する。すでに募集を始めており、次代を担う子供たちが、大会を通じて、スポーツの素晴らしさや、障害のあるなしなどにかかわらず互いに尊重しあうことの大切さ、多様性などを学ぶ機会を提供し、健やかな成長をサポートできる取組にしていく。
- ・また、協賛契約についても報告があったが、68社にも上る企業のご協力をいただいている。ご協力の輪が広がっていることに感謝申し上げる。キャッシュレス募金の種類も増え、より一層参画しやすい仕組みが整ってきた。引き続き、多くの皆様から広く支援を募り、社会全体で支える大会となるよう、取り組んでいきたい。
- ・いずれの取組においても、大会を通じて、デフスポーツの振興や共生社会の実現につながるレガシーをしっかりと残せるよう進めていく。
- ・引き続き、皆様のご助言、ご支援を頂きながら、着実に準備運営を進めていきたい。ご協力をお願いします。

○スポーツ庁（代理出席：古市参事官補佐）

- ・機運醸成に向けた取り組みや、競技スケジュール等、大会そのものの準備が進められていることを確認させていただいた。
- ・ろうあ連盟においては、全国キャラバン活動を開始されたとのことで、今後さらにデフリンピックの認知度が高まり、大会本番を迎えることができるのではないか思う。
- ・無料で観戦ができるとのことで、子供たちを中心に、できるだけ多くの方々に観戦いただけると良いと思う。
- ・動画配信だが、これは全競技、全日程で実施するのか？

○東京都スポーツ文化事業団

- ・基本的には全競技、全日程について、YouTubeで配信する予定である。
- ・ただ、予選等において、複数のコートで同時に展開されるものについては、特定のコートのみで中継する予定である。

○公益財団法人日本オリンピック委員会 星常務理事

- ・着々と大会に向けて準備が進んでいると実感している。
- ・今後、出場選手が決まっていくと思うが、選手の顔が見えてくることによって、よりそ

の関心が高まっていくのではないかと考えている。

- ・先日、2月頃にデフサッカーの男子日本代表の候補チームが、高校生とトレーニングマッチを実施した際に、その高校生の副キャプテンが手話で感謝を伝えたという記事を拝見した。
- ・そうした子供たち、中高生がスポーツを通じて共生社会に関心を持つ、あるいは、身近なところで手話を使ってみようと思うことはとても大事であり、ここに大会を開催する意義があると思う。

○公益財団法人日本パラスポーツ協会 藤原常務理事

- ・着々と準備が進んでいるということで安心した。
- ・ご存知のとおり、パラリンピックとデフリンピックは国際機関も違い、パラリンピックの中で、デフの競技は行われぬ。
- ・全国障害者スポーツ大会が今年は10月に滋賀県で開催されるが、この大会では陸上や水泳、バレーボールにデフの選手も出場する。
- ・JPSAと競技団体で主催しているジャパンパラ競技大会について、先日、陸上競技を仙台で開催し、今度水泳大会を名古屋で開催するが、この大会でもデフの選手に出場いただいている。
- ・国内では、パラスポーツの中でデフの選手も一緒に活動しているとのことで、我々もデフリンピックをできるだけサポートさせていただきたいとの思いで活動を続けている。
- ・今回のジャパンパラ競技大会や、全国障害者スポーツ大会でも、デフリンピックの機運醸成に繋げていければと思っている。
- ・実は、パートナー企業の中にもデフの選手を抱えている企業も多数おり、先日はその企業が集まり、デフリンピックの応援イベントを実施させていただき、ろうあ連盟にもお越しいただいた。
- ・観戦はどうしたら良いかという質問をよくいただくが、無料で観戦でき、その詳細が8月頃に公表されるとのことで、期待して待ちたい。みんなで盛り上げていければと思う。

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・色々な企業から、デフ選手をぜひ推したいということでご相談をいただいているところであり、様々な企業が増えている状況である。パラスポーツとデフスポーツが連携・協力し合いながら、選手をサポートしていくということができたらと考えている。

○中村公認会計士

- ・競技種目別のスケジュール等も拝見し、いよいよ大会が近づいているという実感が湧いたところである。
- ・観覧は無料であり、またYouTubeでも試合が配信されるとのことで大変楽しみにしている。
- ・会場にたくさんの観客の方が入るとことは参加されている選手たちの励みにも繋がっていくと思う。

- ・これから本格的に周知が行われるかと思うが、デフリンピックがあるということを、幅広い方々に知っていただけるようお願いしたい。

○三好弁護士（意見代読：事務局）

- ・大会本番に向けての各種の取組みをご紹介いただき感謝申し上げます。
- ・関係する皆様の一層のご尽力により大会に向けての気運がますます醸成されることを期待している。

【意見交換総括】

○事務局

- ・本日は「未来へつながるプログラム」等の気運醸成に関する取組や、「セッションスケジュール」等の大会準備状況について、皆様にご確認をいただくことができた。
- ・次回連携会議について、具体的な開催時期・開催方法については、改めて事務局から皆様にご連絡を差し上げる。

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・本日皆様からいただいた貴重なご意見を基に、引き続き大会の成功に向けた準備を進めていく。お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。これを持ちまして、会議を終了させていただく。